



青少年赤十字

J R C ふ く し ま

編集発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

皆さんに感謝して



青少年赤十字西白河地区指導者協議会長
白河市立表郷小学校長

神 永 睦 子

十月六日(金)、青少年赤十字学校公開が白河市の信夫第一小学校、大信中学校を会場に開催されました。県内外から三百名を超える方に参加していただき、「気づき、考え、実行する」子ども達の姿をご覧いただきました。両校の先生方の「待つ姿勢」、そして、「自主的に活動」する子ども達の姿に心を打たれた方も多かったと思います。とてもいい発表でした。

西白河地区では、実行委員会を組織し、各係主任の先生を中心に準備を進めました。どの係も、それぞれに役割を

果たしていただきましたし、各学校でJRC活動に熱心に取り組んでいただきました。また、ご指導をいただきました県・市教育委員会様、青少年赤十字福島県指導者協議会長様、日本赤十字社福島県支部の皆様、おいしい大信うどんの入った豚汁を作ってくださった大信地区赤十字奉仕団の皆様、物心両面にわたるバックアップをしてくださった県南地区賛助奉仕団の皆様、両校のPTAの皆様等、ご支援をいただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

「気づき、考え、実行する

子どもと全国学力学習状況調査」と題してご講演をいただきましたのは、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター学力調査官・教育課程調査官の小松信哉先生でした。小松信哉先生は全国学力・学習状況調査の問題を作っていらっしゃるそうです。その問題文には、学力を調査するだけではなく、問題文に込められた意図があることをはじめて知りました。「問

を見る温かい眼差しやお人柄に触れて感激いたしました。青少年赤十字の「気づき、考え、実行する」という態度目標と学力は大いに関係があることを再確認いたしました。

私は、三年前に青少年赤十字指導者協議会の北海道・東北ブロックの研修会に参加したことがあります。他県に比

「気づき、考え、実行する」そして「振り返る」をこれからも学校経営に



白河市立信夫第一小学校長

木 村 真 一

青少年赤十字研究推進校の指定を受け、何をどのように進めていったらよいか手探りの中、これまでの研究校の実践には及びませんが、どうか十月六日、学校公開の日を迎えることができました。

しかし、本研究指定は、本校の実態から、学級全体が生き生きと学習に向かう態度をどのように育成すればよいのか。そして、一人一人の学力

べて、福島県の組織率はかなり高いことにこれまで関わってきた皆さんの努力と実践が表れていると感じました。今後、西白河地区の青少年赤十字活動の充実・発展のためにできることを実践していきたいと思っています。全ての人たちが幸せになる社会をめざして…。

向上のためにどのような手立てを工夫すればよいのか。という大きな課題を抱える中にあって、まさにこの課題を解決する絶好の機会となりました。

これまで、赤十字の理念である「人道」を大切に、「思いやり」「親切」「協力」「折り合いをつける」といった心を育みながら、人の役に立つことに意義と誇りを持てるよ

うにするとともに、青少年赤十字の態度目標である、問題に「気づき」、自分に何ができるか深く「考え」、正しいことを勇気を持って「実行する」、さらに、自分の行いを「振り返る」態度を身に付け、ものごと主体的に取組む児童の育成を、学校経営ビジョンの中核にして教育活動を展開してまいりました。

この研究実践の過程において、あることを実感しました。

それは、「教師が変わらなければ、子どもは変わらない」ということです。逆に言えば、「教師が変われば、子どもも変わる」ということです。さらに、子どもは日々成長します。だから、教師の変化もいつも現在進行形でなければならぬということです。

特に、青少年赤十字の指導上の考え方である、「先見性」「指示のない生活の具現」「子どもの気づきを待つ姿勢」の具現化は、教師自身を変化させ、子どもを見取り価値付けていく有効な手立てであることを実感しました。



公開当日は、青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の関わりから、これまで取り組んできたことの一端をご覧いただきましたが、まだまだ成果と言うには程遠いものです。教職員も児童とともに成長し変化していくため、皆様方からいただいたご意見やご感想を、今後も本校教育活動推進に生かしていきたいと思っています。

今回、青少年赤十字の研究指定をお受けして我々が得たものは何か。端的に言えば「教師像の変容」と言えます。そう思うに至った訳は…。

最後にになりましたが、本研究を進めるにあたり、ご支援やご指導をいただきました多くの関係機関の皆様から感謝と御礼を申し上げます。

変わるべきは教師

白河市立信夫第一小学校

研修主任 佐藤 克 浩

います。さらに「学び合う」

という表現には、青少年赤十字の実践が特別活動や課外の奉仕的な活動を通して行われることにとどまらず、より日常的に、つまり日々の授業でこそ、子どもの実践力と態度を育てていかなければならぬと考えたからです。

さて、研究主題に迫るための研究内容は大きく次の三点です。①対話を重視した授業（協働を引き出す）②主体性を引き出す単元展開（やってみたい、やらなければならぬ）③調整力を高める話し合い活動（折り合いをつける）このような研究内容を実践化するためには、いや、子どもの変容を促すために必要なことは何か。それこそが「教師像の変容」だったのです。教師が方向性を示してばかりいたら、子どもは自分から動き出

そうとはしないでしよう（指示待ち）本音で語り合おうとはしないでしよう。そして教師の評価ばかり気にして、自分自身の評価で自らの行動を見つめ直し、より良い方向へ改善していこうとはしないでしよう。

そのために私たち教師はどうあればよいか。たどり着いたのは次の三つの教師像です。①種まきする教師（黒子に徹する教師）②ほめる教師（寄り添う教師（任せる、委ねる教師）このような教師像を目指して実践を進めると、次第に教室には教師の大きな声ではなく、子ども一人一人の声が響くようになります。

そしてこの研究内容は、今回の指導要領改訂の目玉の一つ「対話的・主体的で深い学び」に相通ずるものがあると考えます。つまり、僭越ながら結論として言えるのは、青少年赤十字に、教育に対する非常に高い「先見性」があったということです。

自分で考え

行動できる生徒に



白河市立大信中学校長

笹 沼 真 一

青少年赤十字研究推進校として、二年間の指定を受け、研究主題に「気づき、考え、実行する生徒の育成」、副主題に「総合、特別活動を柱とした実践を通して」を掲げました。さらに、目指す生徒像として、「相手の気持ちをくみ、思いやる生徒」、「相手の立場を尊重し、自分の考えで行動できる生徒」、「自分のできること自発的に活動できる生徒」を設定し、研究実践に取り組んで参りました。

生徒会では、本部が中心となり「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の青少年赤十字実践目標達成に近づけるよう被災地支援活動等の募金活動や飢餓支援活動にも取り組んで参りました。

各委員会では、自分たちは何ができるか、どうすればよいかを考え、案を出し合い活

動してきました。

各学年の総合的な学習の時間の活動では、

一年生は、郷土のことを考え郷土を愛し、郷土のために自分ができることは何かを考え、伝統や文化を継承していくことの大切さを学んできました。

二年生は、将来郷土の発展に貢献できる大人となる自覚を高めることを目標に、地元を中心とした事業所での職場体験を通して働く喜びや大切さを学んできました。

三年生は、社会における福祉の重要性に気づき自分にできることは何か考え、体験を通して実行する力を身につけるべく学んできました。

研究公開当日は、これらの生徒会活動や各学年の実践活動発表での、子どもたちの自主的・主体的な活動ぶりにお

褒めの言葉をいただき恐縮いたしました。しかし、地域との協働という点では課題も出ましたので、今後の活動に生かしていきたいと思っています。

この研究実践を通して、子どもたちは地域の一員として地域のために何ができるのかに気づき、主体的に考え、具体的に実行に移すことができました。今後も継続して主体的に気づき、考え、実行できる生徒を育てていきたいと考えています。

気づき、考え、実行する

生徒の育成をめざして

白河市立大信中学校

J R C 担当 佐藤 一彦

本校は、青少年赤十字研究推進校として研究主題「気づき、考え、実行する生徒の育成」というテーマのもと、教育活動に青少年赤十字の精神を意義付け取り組んできました。

総合学習では、原発事故により、本地区で営業をしてい

えています。



きる心の育成に繋がりました。福祉体験学習では、事前活動で車椅子体験や点字の学習を行い、老人や障がい者の方々に喜んでいただき、生徒にとって相手の気持ちを考える行動する絶好の奉仕活動の場となりました。

特別活動においては、「何のための委員会活動なのか」という生徒の意見で専門委員会の意識が変化しました。学校生活上の問題やニーズに気づき、みんなで話し合い（考え）、協力して解決することで学校生活が改善され向上していく（実行）ことを理解し、新たな活動が委員会が始まりました。例えば、日常生活の友達のよい行いや心温まる行いの紹介を放送した放送委員会、授業で経済的に貧しい国があることを理解し、書き損じはがきの収集を自分達で始めた新聞委員会など様々な取り組みが見られるようになりました。このような自発的な取

り組みができるようになってきた背景には、全校集会や道徳の授業などを通してボランティア精神の意識付けを行ったことも要因としてあげられます。

二年間の取り組みにより、役員さんが荷物を持っていると「持ちます」という声、清掃時教師のために用具が決まった場所に準備してあるなど、日常生活で自発的に行動

できる生徒が増加してきました。来年度も自発的な生徒の育成を目指し、支援をしたいと思っています。

私達のJRC活動

白河市立大信中学校

三年 国井 昂也

大信中学校では、昨年度からJRC関連の活動として、生徒会執行部が中心となり、ペットボトルキャップの回収や募金活動を行ってきました。ペットボトルキャップの回収では、各家庭や地域の方々から多くの協力を得て、予想をはるかに上回る数のキャップを回収することができました。

す。飢餓で苦しむ人々を救うために何ができるか考えた結果、取り組むことを決めました。生徒だけでなく、保護者の皆さんや先生方にも協力を得ることができました。

今年度、執行部として新たに取り組んだのは、「救缶鳥プロジェクト」です。救缶鳥という缶パンを一定期間備蓄した後、回収し、飢餓に苦しむ人々に届けるというもので

執行部以外にも、スローガン「気づき、考え、実行する」のもと、各委員会が活動しました。放送委員会では、「あったか大信タイム」という時間を設け、生徒の活躍の様子や何気ないことばで気持ちがあたたかくなつたことなどを放送しまし

た。新聞委員会では、新聞作成に加えて、書き損じハガキの回収を行いました。これらは、自分たちの「気づき」から始まった活動で、私達を大きく成長させてくれました。今後も継続して取り組み、大信中学校の伝統として引き継いでいきたいと思っています。



青少年赤十字作品募集

『詩』・『100文字提案』



青少年赤十字作品募集『詩』・『100文字提案』

青少年赤十字作品募集は「青少年赤十字活動の活性化と意識を高めること」を目的にして、平成十八年度から今年度で十二回目の募集となります。平成二十四年度からは、海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施されています。

今年度は六四校から五〇六七作品の応募がありました。審査は予備審査から第二次審査まで延べ五十数名の審査員の方々により、作品一つ一つに込められた皆さんの思いを受け止めるべく慎重に行われ各賞が決定しました。

今年度も積極的に応募いただいた学校、適切な指導を頂きました指導者の方々、進んで応募いただいた児童、生徒の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

社長賞

ぼくの大好きな福島

須賀川市立阿武隈小学校 四年 矢吹 颯



ぼくは、福島が大好きです。でも、テレビや新聞に「フク

シマ」とカタカナで書いてあるときは、必ず原発事故や放射能の話題のときです。それを見ると、いつも悲しくなります。社会科の学習で、福島県のことを調べました。五十万の市町村があつて、約百九十九万人の人が住んでいます。自然もいっぱい、とてもきれいです。ぼくと同じように元気な人がたくさんいます。みんな楽しく生活しています。このことを世界中の人に知ってもらいたいです。

日本赤十字社 社長賞

「福島・日本・世界のために わたしがしたいこと、できること」

須賀川市立阿武隈小学校 四年 矢吹 颯

「フクシマ」は、きれいです。

カタカナで書くと、放射能でよごれているようです。

ぼくが住んでいるのは、「福島」です。

山も川も鳥も虫もぼくも、元気です。

学校も楽しい。

こんな福島のことを見てもらいたいです。

新しい挑戦

福島県立白河旭高等学校

三年 磯貝 渉太

私と親戚のおじさんは直接にはあまり関わりはないのですが、家族に「漁師をやっていたけど、今は酒造りをしてみたいだよ。しかも福島県のもので」聞きまし。津波で家族を亡くしているのに、それに高齢なのに新しいことに挑戦する彼は強く、勇ましくて格好い。私も何かに挫折したとしても彼のように、また立ち上がって前を向いて進んで行こうと思いました。

日本赤十字社福島県支部長賞

「わたしが感動したことばやでこと」

福島県立白河旭高等学校

三年 磯貝 渉太

私には被災した親戚がいます。

彼は八十二歳です。

漁師として働いていましたが、今はできません。

彼は今、福島県のもので酒づくりに挑戦しています。

彼は高齢にして新たな人生への第一歩を踏み出したのです。

手のぬくもりに感謝して

会津坂下町立坂下中学校

二年 桑原 希

私のできるボランティアを考えた時に、おじいちゃんやおばあちゃんの顔がすぐに浮かびました。日本舞踊の会で老人ホームに慰問し踊りを披露しているからです。勉強と部活動で稽古の時間が取れませんが、私の踊りで「ありがとうございます」「上手だったよ」「また来てね」と涙を流しながらかけてくれる言葉とあたたかい手のぬくもりにも応えるために、これからも踊りを続けていきたいと思っています。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしのできるボランティア」

会津坂下町立坂下中学校

二年 桑原 希

日本舞踊の会で小一から年に数回、老人ホームに慰問しています。踊り終わると、目に涙をためて私をじっと見つめ、「ありがとう」の思いの込もった手のぬくもり……私の成長を見守ってくれているような思いを感じます。

歴史をつなぐ愛

白河市立白河第二中学校

一年 金澤 頼志

小峰城は、白河市のシンボル。その姿は堂々として美しく、まるで白河を守り愛することが自分の使命だと言っているように感じます。

植物も虫も動物も人間も、全てが大切な一つの命としてそれらの声に毎日静かに耳を傾ける小峰城。

大震災で崩れた石垣を再建するために、多くの人々が力を貸してくれたことに感謝しているのではないだろうか。愛情をもって助け合いながら歴史をつなぐことの大切さ

を、小峰城が教えてくれました。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河第二中学校

一年 金澤 頼志

私は
じつと立たずむ……
風の匂いが変わっても。

多くの命が
それぞれの思いで
私を見つめ、語りかけ、
そして去って行った。
ある時は風雨に打たれ
ある時は揺れに耐えた。

今宵も、
月の光を背に浴びて
皆の声に
耳を澄ませよう。

私は、小峰城

受賞された皆さん

日本赤十字社社長賞

須賀川市立阿武隈小学校

四年 矢吹 颯

日本赤十字社福島県支部長賞

白河市立表郷小学校

二年 大久保 奏

相馬市立日立木小学校

一年 今村 清邦

西郷村立西郷第二中学校

三年 渡辺 紗弥

福島県立白河旭高等学校

三年 磯貝 渉太

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

会津坂下町立坂下中学校

二年 桑原 希

福島県青少年赤十字賛助奉
仕団委員長賞

白河市立白河第二中学校

一年 金澤 頼志

学校賞

福島市立庭坂小学校

郡山市立富田東小学校

須賀川市立柏城小学校

相馬市立日立木小学校

いわき市立郷ヶ丘小学校

福島市立福島第一中学校

学校奨励賞

郡山市立富田東小学校

福島市立福島第一中学校

フィリピンユースメンバー福島訪問

日本赤十字社福島県支部国際交流事業

11 / 5 (日)
S
11 / 11 (土)

フィリピンメンバーの福島での日程

11月5日(日)	●福島着 (いわき市)
11月6日(月)	●地域防災交流センター久ノ浜・大久ふれあい館 ●いわき・相双地区高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会参加・ホームステイ
11月7日(火)	●磐城第一高等学校・いわき総合高等学校・平工業高等学校・平商業高等学校 ホームステイ
11月8日(水)	●コミュタン福島 (原子力災害について)・日赤福島県支部 ●福島赤十字病院 ホームステイ
11月9日(木)	●福島東稜高等学校・旧堀切邸見学・学校法人松韻学園福島高校・県北JRCメンバー交流会
11月10日(金)	●福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会第50回県大会参加
11月11日(土)	●帰国





平成二十九年度福島県青少年赤十字国際交流事業として、フィリピンユースメンバーを福島に招待しました。昨年までは福島のメンバーをフィリピンに派遣していましたが、今年度は更に互いの交流を深めることを目的にフィリピンメンバーを福島に招待したもので、四名のメンバーとスタッフ、計五名が福島を訪れました。

招待の目的は青少年赤十字のメンバーとの交流を通して互いの理解を深めることに加え、間もなく七年目を迎えよ

うとしている東日本大震災の被害と復興に向けての取り組みを実際に感じてもらうことにあります。

メンバーはいわき市久ノ浜の防災センターを見学し、津波や火災の被害、避難所生活について説明を受け、三春町の県環境創造センターでは原発事故や福島の美しい自然の映像に触れ震災や福島の現状について理解を深めました。学校訪問や県大会への参加で福島の高校生やJRCメンバーと交流し、互いに活動発表を行うことで絆を深めていきました。

また、茶道や浴衣の着付けなど日本文化に触れ、日本の豊かな四季の景色とともに忘れることのできない思い出となったのではないのでしょうか。明るく積極的でフレンドリーなフィリピンメンバーとの交流を通じて、福島の高校生も国際的視野に立って物事を考え行動することの大切さや自分の意見をきちんと述べること、本場の意味で国際理解に繋がることを学んだ七日間でした。

思い出の三日間

福島県磐城第一高等学校 一年 高坂 伊織

平成二十九年度福島県青少年赤十字国際交流事業で五人のフィリピンユースメンバーが約一週間福島県に滞在し、そのうちの三日間、アンジェロ君が私の家にホームステイしました。

初日の夜は、家族が作ったたくさんのお日本食で歓迎パーティーをしました。

フィリピンでは生卵が食べられないと聞いたので卵かけごはんにチャレンジしました。お寿司や天ぷら、煮物など美味しそうに食べてくれたので嬉しかったです。特にコロッケが気に入ったみたいです。「フィリピンにはどんな料理があるの?」と聞くと、コロッケに似た料



理があることや、アドボという肉料理のことを教えてくれました。

次の日の夜は料理が得意なアンジェロ君が私たち家族のためにアドボという料理を作ってくれました。家族みんなでアンジェロ君と一緒にスーパへ行き、お肉やトマ

ト、酢などを買いしました。アドボは醤油と酢がきいてとても美味しく、家族からも好評でした。外国の人と長い時間一緒に過ごすのが初めてだったので最初はとても不安でしたが、英語が通じなくても積極的にコミュニケーションをとり打ち解けることができました。アンジェロ君のおかげで家族の絆や団結感がさらに深まりました。また、フィリピンに対する関心が今まで以上に高まりました。このような素晴らしい体験をさせていただきます。ありがとうございました。

あ
と
が
き



今年の学校公開では前日の会場作成や資料展示など中学生が大活躍してくれました。様々な活動を通して、気づき、考え、実行する生徒さんが育っていると感じます。お忙しいところ原稿をお寄せいただきました方々、協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

赤十字救急法受講の状況について

青少年赤十字の実践目標の一つに「健康・安全」があります。今年度も多くの学校、団体が赤十字救急法を受講しました。(平成30年1月31日現在)

月日	学校・団体	受講者	人数	月日	学校・団体	受講者	人数
救急法 基礎講習				7月7日	須賀川市立白江小学校	教職員、保護者	48
7月20日	学校法人尚志学園 尚志高等学校	JRC 部員	23	7月7日	郡山市立御館小学校	教職員、保護者	34
7月26日	福島県立白河旭高等学校	JRC メンバー	28	7月7日	福島市立平石小学校	児童、教職員、保護者	20
7月27日	青少年赤十字県南地区高等学校指導者協議会	JRC メンバー	25	7月7日	福島市立立子山小学校	児童(1～6年生)、教職員、保護者	29
8月17日	学校法人福島成蹊高等学校	3学年普通コース	19	7月7日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー	11
8月21日	県北地区高等学校青少年赤十字連絡協議会	JRC メンバー、教職員	17	7月7日	福島市立松川小学校	児童、教職員、保護者	150
8月21日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	16	7月8日	田村市立栗田小学校	教職員、保護者	38
救急法 救急員養成講習				7月10日	白河市教育委員会	教職員	15
8月21日～23日	県北地区高等学校青少年赤十字連絡協議会	県北地区高校 JRC メンバー、教職員	17	7月11日	鏡石町立鏡石第二小学校	児童(5・6年生)、教職員、保護者	64
8月22日～23日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	16	7月11日	三春町立沢石小学校	児童、教職員、保護者	90
救急法 短期講習				7月12日	棚倉町立近津小学校	児童(5・6年生)、教職員、保護者	25
5月22日	福島大学附属中学校	教職員	20	7月12日	猪苗代町立緑小学校 PTA 会長	児童、教職員、保護者	52
5月23日	郡山女子大学附属高等学校	生徒(1年生)、教職員	147	7月14日	中島村立吉子川小学校	教職員、保護者	32
5月30日	郡山女子大学附属高等学校	生徒(3年生)	112	7月14日	郡山市立富田東小学校 PTA	教職員、保護者	49
6月10日	郡山市立東芳小学校	教職員、保護者	62	7月14日	福島市立森合小学校	教職員	30
6月12日	郡山女子大学附属高等学校	教職員	15	7月15日	伊達市立小手小学校	児童、教職員、保護者	51
6月12日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	教職員	26	7月18日	郡山市立郡山第六中学校	生徒(2年生)	127
6月12日	郡山市立朝日が丘小学校 教養委員会	教職員、保護者	49	7月19日	郡山市立郡山第六中学校	生徒(3年生)	94
6月15日	いわき市立草野小学校	教職員、保護者	47	7月20日	須賀川市立大森小学校	教職員	13
6月16日	白河市立白河第二小学校	教職員、保護者	41	7月21日	白河市立白河第三小学校	教職員	33
6月17日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー	33	7月24日	白河市立白河第五小学校	教職員、保護者	8
6月19日	青少年赤十字田村地区指導者協議会	教職員	33	7月25日	福島県立郡山支援学校	教職員	67
6月21日	郡山市立安積第一小学校	保護者	21	7月26日	白河市教育委員会	教職員	29
6月21日	郡山市立高瀬小学校	児童、教職員、保護者	39	7月26日	福島県立あぶくま支援学校	教職員	130
6月22日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	教職員	39	7月27日	伊達地区青少年赤十字指導者協議会	高校生、教職員、賛助奉仕団員	13
6月22日	須賀川市立岩瀬中学校	生徒、教職員	160	7月28日	青少年赤十字いわき地区小中学校指導者協議会	児童・生徒、教職員	40
6月23日	いわき市立錦東小学校	教職員、保護者	32	7月28日	青少年赤十字両沼地区指導者協議会	児童・生徒、教職員	100
6月23日	白河市立信夫第二小学校	児童(5・6年生)、教職員、保護者	33	7月31日	会津若松・北会津青少年赤十字指導者連絡協議会	児童・生徒	83
6月23日	会津若松市立一筑小学校	教職員、保護者	51	8月4日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	36
6月25日	田村市立瀬川小学校父母と教職員の会	児童(5・6年生)、教職員、保護者	43	8月9日	青少年赤十字郡山地区指導者協議会	児童(4～6年生)	56
6月27日	三春町立三春中学校	生徒(2年生)	115	8月24日	福島市立西信中学校	教職員	16
6月28日	三春町立三春中学校	生徒(3年生)	113	9月1日	白河市立信夫第一小学校	児童(5・6年生)	38
6月28日	郡山市立永盛小学校 PTA 会長	教職員、保護者	82	9月12日	いわき市立江名中学校	生徒(3年生)	53
6月29日	三春町立三春中学校	生徒(1年生)	106	9月19日	いわき市立菊田小学校	児童(5年生)	26
6月29日	郡山市立桜小学校	教職員、保護者	45	10月6日	いわき市立菊田小学校	児童(5年生)	27
6月30日	矢吹町立三神小学校	保護者	42	10月10日	福島県立郡山商業高等学校	生徒、教職員	32
6月30日	白河市立五箇小学校	教職員、保護者	52	10月17日	いわき市立菊田小学校	児童(5年生)	26
6月30日	郡山市立高倉小学校 PTA	教職員、保護者、子ども教室安全管理委員	42	11月15日	福島県教育委員会	県内の放射線・防災教育推進校の小中学生及び教師	31
6月30日	郡山市立鬼生田小学校	教職員、保護者	27	幼児安全法 短期講習			
6月30日	三春町立中郷小学校	教職員、保護者	63	7月26日	福島県立白河旭高等学校	JRC メンバー	28
6月30日	郡山市立柴宮小学校 PTA 会長	教職員、保護者	59	水上安全講習 短期講習			
6月30日	郡山市立行健小学校 父母と教師の会	教職員、保護者	27	7月3日	大玉村教育委員会	教職員	34
6月30日	白河市立みさか小学校	教職員、保護者	28	7月8日	大玉村教育委員会	教職員	10
7月2日	郡山市立安子島小学校	教職員、保護者	42	7月13日	福島市立荒井小学校	児童(3年生)	36
7月3日	郡山市立守山小学校	保護者	34	7月19日	猪苗代町立吾妻小学校	児童	77
7月3日	二本松市立油井小学校	保護者	56	9月6日	浅川町立山白石小学校	児童、教職員	30
7月4日	本宮市立白岩小学校 PTA	児童(6年生)、教職員、保護者	81	9月13日	いわき市立好間第一小学校	児童(5・6年生)	100
7月4日	福島市立平田小学校	教職員、保護者	29	健康生活支援講習 短期講習			
7月4日	郡山市立行健第二小学校	教職員、保護者	59	8月2日	青少年赤十字耶麻地区指導者協議会	児童・生徒、教職員	87
7月4日	郡山市立金透小学校	教職員、保護者	39	8月8日	青少年赤十字福島県指導者講習会日本赤十字社福島県支部	県指導者講習会参加者	62
7月4日	郡山市立安積第二小学校	保護者	116	8月10日	いわき相双地区高等学校 青少年赤十字指導者協議会	いわき地区高校 JRC メンバー	37
7月5日	郡山市立橘小学校 父母と先生の会	教職員、保護者	23	防災セミナー			
7月5日	会津若松市立日新小学校	児童、教職員、保護者	37	7月27日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	児童・生徒、教職員、保護者	45
7月6日	いわき市立菊田小学校	児童	77	8月9日	会津地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	会津地区高校 JRC メンバー	30
7月7日	三春町立中妻小学校	教職員、保護者	35	9月15日	相馬市立中村第一中学校	生徒	140
				9月12日～13日	いわき市立江名中学校	生徒(3年生)	53